



トラストだより



一般財団法人奥山保全トラスト会報誌 VOL. 3 / 2014. 12. 31



2014.11.4撮影：家田俊平

1216mの鳥取県境尾根から見降ろした兵庫県戸倉トラスト地渡辺保護区120ヘクタール（白線より手前尾根まで）

理事長あいさつ

室谷悠子

「一般財団法人」奥山保全トラストは公益財団になるための手続を進めています。公益財団法人になった後、NPO法人奥山保全トラストが所有する全てのトラスト地を譲り受ける予定です。

現在当財団が所有している兵庫県戸倉トラスト地（120ha）では、調査や保全活動が頻繁に行われており、皆様のご寄付も使わせていただいています。トラスト地に設置した自動撮影カメラには、クマ、シカ、イノシシ、タヌキなどがほんのたまですが餌を求めて通行していくようすが写っています。

近年、原始的な森林も荒廃が進んできており、酸性雨や気候変動等が原因と考えられます。民間の森林保全活動がもっと大きくなる必要を感じています。



2014.10.6 撮影

一般財団法人 奥山保全トラストへのご寄付口座は以下です

～土地取得・トラスト地管理資金にご協力ください～

- ・ ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993
- ・ 三井住友銀行 西宮支店 普通 8654039
- （口座名） 一般財団法人 奥山保全トラスト



森再生活動

①植生保護網の設置 8月30日

ササがまだ少し残っている標高992m地点の尾根沿いに植生保護網を設置しました。シカが下草を食べ尽す前に、囲いの中だけでも下層植生を守ろうとする試みです。潜在植生がよみがえってくるか、今後の経過が楽しみです。



②伐採木の一部を搬出 (11月19~12月9日まで全10回)

今年の2月に伐採したスギが地面を覆い尽くし、下草が生えることができなくなっています。これら多過ぎる伐採木の一部、搬出することにしました。道入れや架線使用などを検討しましたが、どちらも難しいことがわかりましたので、結局自分たちで幅30cm程度に細かく玉切りし、谷川の上に伐採木で橋をかけ、一輪車で車道まで出しています。来春も継続して出していく予定です。人海作戦です。ご協力ください。

水生生物調査 9月28日

長年の課題であった戸倉トラスト地の水生生物調査を行いました。

2006年のトラスト地購入時に谷川を見ると、すでに魚影が見あたりませんでした。地元の方が、「釣り人が来て乱獲した」、「バッテリーを持った人が来て、電気を流して根こそぎ獲っていった」等と教えてくださいました。

今回は、40年にわたり溪流釣りをされている関亥三郎氏に来ていただき調査しました。すぐに12cmほどのアマゴがかかりました(調査後、すぐ放流)。小さくても、まだアマゴが少しはいることがわかり嬉しく思いました。

今回、見つけることが出来たのは、アマゴ、タカハヤ、カジカ、サワガニ、イモリ、川虫などです。

谷川の水量が昔と比べて激減しているため、流れは緩やかです。その結果、岩の下の空間が土砂で埋まってしまう、魚たちの隠れ家がなくなっており、溪流魚が生息しづらくなっている実態が明らかになってきました。昔のように水生生物が豊かに生息するためには、トラスト地だけではなく、この地域の広範な山を、保水力豊かな広葉樹林に戻していくことが不可欠だというのが、関氏の出された結論です。



サワガニ

アマゴ

ロゴマークが出来ました

兵庫県姫路市在住のイラストレーター住谷加代さんが、奥山保全トラストのロゴマークをデザインして下さいました。(右図)

モコモコとした広葉樹と野鳥や野生動物をモチーフとした豊かな自然の森をイメージしています。

